



未来ファンド おうみ おうみ

おたがいさまがつながる社会をめざす
にゅーす

News

Mirai Fund Ohmi News Letter Vol.6

2013.3 春号



つながる活動

Photo



ホタルの学校

大津市南部を流れる千丈川で、子どもたちとホタルを守る活動を2003年から行っている「ホタルの学校」は、2012年、未来ファンドおうみ「びわ湖の日基金」助成を受けて10周年記念行事や生きもの観察会などを行いました。

南郷小学校の4～6年生で生きものが大好きな子どもたちが、毎月、千丈川でホタルや生きもの観察をしています。川の周りに子どもたち手作りの「ゴミを捨てないで！」のポスターを付け、環境保全の大切さを伝えています。ホタルの学校を卒業した子どもたちは活動を手伝い、自然を大切にすることを次の子どもたちへ伝えています。

Data

- 団体名：ホタルの学校
- 連絡先：滋賀県大津市南郷2-24-6 荒井紀子
TEL / FAX：077-534-8568
E-mail：noriko-arai@hera.eonet.ne.jp

話題

寄付のチカラ

つながる社会

Tsunagaru Syakai

「誰もわかってくれない。世の中
から取り残されて、ひとりぼっちだ
よ」。

児童虐待で亡くなる子ども、いじめ
や体罰から逃れるように自死した
子どもの報道が続いています。虐待
やいじめの報道に、何かできないか
と思う人の応援の気持ちを寄付の形
で預かり、子ども支援の活動団体へ
届けたい。10年ほど前、子どもを
応援するための市民基金の設立に
加わりました。

ひとは、ひとのつながりが感じら
れなければ、生きていけません。
誰かが私のことを気にかけてく
れている、それを感じられることが、
今日を、明日を生きる力になる。私
がそう思うようになったのは、第一子
を出産後の育児ノイローゼの経験か
らです。

暗くなったマンションの部屋で、
仕事で帰らない夫を待ちながら、子
どもと二人泣き続けた日もありまし
た。私たち親子を救ってくれたの
は、同じように悩みを抱える母親た
ちとの出会いや、子育てで悩み孤立
している親を心配し、支えたいと考
える人の存在に気が付いたことでし

た。社会から忘れられた存在になっ
たように思っていた時、私のことを
気にかけてくれた人がいたことに、
勇気をもらえました。

子どもたちの生き難さに接した
時、子どものために何かしたいと思
う人の気持ちを寄付の形で預かり届
けて「あなたはひとりじゃないよ、
生きて」というメッセージを見える
形にしたい、と思いました。

いじめ自死した子どもが通ってい
た学校のPTA
会長さんと出
会いました。
ご自分を責め
続ける会長さ



ファンドレイジングの小箱

A Small Box of FUNDRAISING

寄付を集めるためのひと工夫、寄付者の共感を呼ぶ事業、
想いをつなぐ取り組みをご紹介します。

NPO 法人芹川

地域の強い連携で 芹川の美しさを次の世代に伝える

彦根城築城からの歴史を持つ「芹川」は、
堤防の樹齢約400年のケヤキ並木が有名
で、地元住民の散歩道や観光名所として親
しまれています。NPO法人芹川は「芹川を
美しくする会」を前身に、美しい芹川を次
の世代に伝えようと約10年前からNPO
法人 芹川を立ち上げ、河川の環境美化活
動に取り組んでいます。芹川沿いの14自
治会とも連携し、毎年6月の清掃活動には
1,000人以上の地域住民や近隣の高校生
が参加します。

2.5km程の芹川沿いの遊歩道にはトイ
レがなく、NPO法人芹川が運営する誰も
が気軽に休憩できる「プレイハウス晒庵」の
トイレを開放していました。また「遊歩道
沿いに水洗トイレを」と寄付も呼びかけて

いました。

2012年、トイレ建設のために「きれい
な川と暮らそう基金」から助成金64万円を
受け、不足分約20万円は会員や地元企業な
どへ説明に歩き、寄付を募りました。地元
企業から便器の寄贈があったり、ブログへ
の掲載の効果か、遠く西宮市の方から寄付
があったり、志に勇気づけられました。建
築は、大工や電気技術を持つ会員の特技を
活かして組み上げました。特に、入口の施
設名板は伝統工芸士の早野康晴さんが、金
銀箔の飾りの天井は、事務局長で箔押し職
人の辻橋正一さんが手がけました。使う誰
もが「私のトイレ」と思って欲しいとの願い
から「みんなのトイレ芹川」と命名。広々と
したトイレには写真家中村憲一さんの芹川



▲県内産のスギ間伐材を利用した、男女障害者兼用の広々としたトイレ。彦根の伝統工芸にも触れられます。

上流の写真が飾られており、川への意識を
呼び起こしています。

「川は文化をつくる。川はコミュニティ
をつくる。」と辻橋さんは言います。地域へ
の思いを集めて完成したトイレは地元の方
の協力や利用者の募金により維持管理され
ていきます。

人と人を結び、人と川を結ぶ大切なトイ
レ。ぜひ訪ねてみてください。

NPO 法人芹川

滋賀県彦根市中敷町722-1
TEL: 0749-23-8272 FAX: 0749-26-2130
E-mail: serikawa200502@yahoo.co.jp
URL: <http://nposerigawa.com/>

米田 佐知子さん

子どもの未来サポートオフィス 代表



米田佐知子(よねださちこ)さん

大阪出身。商社勤務時代にボランティアとして国際協力、環境保全NGOで活動。神奈川へ転居後は、NPOの中間支援組織に関わる。出産を機に子育て支援NPOを立ち上げ。2001年、約9000項目の意見を集め行政提言した「よこはま一人子育て提言プロジェクト」代表を経て、日本初のテーマ型地域市民ファンド「神奈川子ども未来ファンド」専従事務局としてファンドレイズ、助成など、事業・組織運営全般に9年間従事。現在「子どもの未来サポートオフィス」代表。

んとお話しするうち「子どもが育っていくには、学校や家庭とは別に、まちの中の居場所やつながりが大切。今もどこかで、“自分なんか生きていても仕方ない”と考えている子どものために、地域の中にある居場所を支えたい」と言ってくださいました。会長さんは周囲に寄付を呼びかけようと、募金箱をいくつも持ち帰られました。自分が直接できない子ども支援に寄付を呼びかけることは、会長さんが一歩を踏み出す力になったようでした。

「働けなくなって年金生活で世の中から支えられる存在ですが、月数百円なら、私にもまだ、社会のため

に、子どもたちのためになれると思うと嬉しいです」そんなメッセージの添えられた寄付をこれまで、たくさん預かり、届けてきました。

孤独が蔓延している世の中だからこそ、ひとのつながりは一層大切。誰かのためにと託した気持ちは巡って、また自分のもとへと帰ってきます。

私たちの暮らしや環境を支える行政の様々な制度は、その問題に社会が関心を示し、取り組む必要性が認められて初めて、形になります。まだ社会に認知されない誰かの困りごと、様々な問題に取り組む市民団体

への寄付は、その活動、取組が信頼され、支持されていることを顕在化し、困りごとや問題を解決するための仕組みとして、社会を育てていく投資ともなるのです。助け合いの社会を育てていく、寄付には、そんな力があります。

あなたは、どんな取組みに賛同して、寄付で参加したいですか？



未来ファンドおうみ応援団

Cheer Group of MIRAI FUND

未来ファンドおうみへご寄付いただいた企業、個人の方々の想いをご紹介します。

びわこ市民研究所

人の温もりを伝え、リアルな出会いをつくりたい

2011年、びわこ市民研究所からのご寄付により、未来ファンドおうみ「日本の元気なきずなプロジェクト基金」が開設されました。この基金は「淡海のつなぐ、ひらく、みらい」賞として、地域社会の課題解決に自主的に取り組む市民による、草の根のまちづくり活動を毎年4団体表彰します。受賞団体は、朝日新聞の広告紙面1面に活動紹介が掲載されます。びわこ市民研究所の菱川貞義さんにこの基金の開設への思いをお聞きしました。

びわこ市民研究所は、2001年8月8日に設立されました。ホームページには、琵琶湖に関わる環境活動をする人々を菱川さんが取材した、その人の温もりが伝わるレポートや活動の紹介があります。また活動

やボランティア情報なども掲載され、環境活動に参加したい人をつなぐ琵琶湖の環境活動ポータルサイトとなっています。「インターネットは1つのツールです。大切なのはリアルに出会うこと。出会いたくなる情報を提供し、人と人をつなぎたいと思っています。私はこれを『戦略のおせっかい』と呼んでいます」と菱川さん。

「淡海のつなぐ、ひらく、みらい」賞の受賞団体も菱川さん自らが取材し紙面作りをします。活動する人の人間くささや人柄を伝えたいとの思いがこもります。紙面の協賛広告欄には、その団体を応援する個人や企業などの名前が並びます。受賞団体が自ら企業や個人に出会い、応援してもらう仕組みです。ここにも「人との出会いをつく



▲賑やかなホームページには、魅力的な人がたくさん紹介されています。

り、裸のつきあいをしてほしい」という思いがあります。

目標は、この『つなぐ』が寄付やお金の循環になり、持続的な仕組みになること。まさに、お互いさまがつながる仕組みです。

びわこ市民研究所

滋賀県大津市本堅田3丁目28-12
E-mail : shiminken@mac.com
URL : <http://www.shiminken.net/>

人と自然、人と人をつなげる 森づくり

未来ファンドおうみ
「淡海のつなぐ、
ひらく、みらい賞」
受賞

里山保全活動団体「遊林会」

地域の荒れた森を整備して、明るい森に戻したい。そして子どもたちに本物の自然に触れさせてあげたい。そんな夢を抱いた私たちは15年間、活動を続け、その夢は「河辺いきものの森」という里山となりました。この森で、年間約8,000人の子どもたちが自然体験を楽しんでいます。



1年の中でも、春は里山が一番色鮮やかな季節。保全活動に参加しながら、ふと見上げる新緑は格別です。どなたでも参加OK！お昼は薪で炊いたご飯など、おいしい料理をいただきます。

- ◆里山保全活動団体「遊林会」
- ◆連絡先：河辺いきものの森 ネイチャーセンター
〒527-0003 滋賀県東近江市建部北町531
TEL：0748-20-5211 E-mail：ikimono@e-omi.ne.jp
- ◆活動日時：毎月第2土曜、第4水曜。9:00から。参加無料、早退可。「ゆうりんかい」で検索

「地域」で「子どもと大学生」が学ぶことの価値

トポス

「未来の社会の担い手」となる子どもをより良く育てることは、社会的課題の一つです。しかし、見落としがちであるのが「子どもをサポートする『教師』をどう育てるか」という視点でしょう。とりわけ、「大学生」は学校現場に立つまでに「社会経験」をすることが必要です。トポスは、教師をこころざす「大学生」が、専門を活かしながら課題を持つ地域の子どものサポートを通して、実践的に学ぶ場づくりをミッションにしています。2009年より主に大津市の小・中学生の教科学習の補習、テーマ別体験学習、「琵琶湖」や「科学実験」の企画実施、地域の社会活動（瀬田川の清掃など）への参加、などの活動をしています。今年度は未来ファンドおうみ「おうみNPO活動基金」の助成で、石山まちかど教師塾を継続開催し、地域とのつながりを深めました。



- ◆トポス
- ◆連絡先：城木 信浩
TEL：070-5434-1639
E-mail：topos.kikaku@gmail.com
ブログ：http://topos-ishiyama.tumblr.com/

Information

インフォメーション

未来ファンドおうみ助成事業 2012成果発表会

2012年4月から2013年3月まで、未来ファンドおうみ助成事業2012の採択を受けた団体の成果発表会を行います。おうみNPO活動基金助成団体3団体、びわこ市民活動応援基金助成団体4団体、びわ湖の日基金助成団体3団体が発表します。また、「淡海のつなぐ、ひらく、みらい」賞受賞団体の活動発表も行います。助成申請をお考えの方、市民活動にご関心のある方、ぜひご来場ください。

- ◇日時：4月13日(土)午後
- ◇会場：県民交流センター(ピアザ淡海)207会議室
- ※詳細につきましては、当センターHPに掲載いたします。

未来ファンドおうみ「びわ湖の日基金」寄付つき商品募集中！

2011年7月1日、びわ湖の日制定30周年を記念して「びわ湖の日基金」を開設しました。琵琶湖への想いを込めた寄付をお預かりし、年間をととして琵琶湖と琵琶湖につながる森林や河川などの環境保全活動を行う市民活動団体への支援を目的に助成を行います。

お買い物で琵琶湖の環境保全活動を行う市民活動を応援

できる仕組みとして、「びわ湖の日基金」寄付つき商品を募集しております。滋賀の豊かな水や大地からの恵みを利用した商品で、市民による琵琶湖の環境保全活動を応援しませんか？

お問い合わせは、淡海ネットワークセンターまで。

インターネットで「びわ湖の日基金」と検索してください。

●新しく寄付つき商品が増えました！●



▲太田酒造(株)
「金紋道灌」



▲(一社)比良里山クラブ
「ヒラペリラ」



▲ウディパルレウ
「山かぶドレッシング」



▲真田かずこ著
詩集「奥琵琶湖の細波」

未来ファンドおうみへの寄付・助成事業についてのご相談は淡海ネットワークセンターへ



Ohmi Network Center

淡海ネットワークセンター

公益財団法人 淡海文化振興財団

公益財団法人 淡海文化振興財団

淡海ネットワークセンターは、県内の市民活動、NPO をサポート・ネットワークしています。

■〒520-0801 大津市におの浜 1-1-20 ピアザ淡海 2 階 ■TEL 077-524-8440 ■FAX 077-524-8442

■http://www.ohmi-net.com ■E-mail:office@ohmi-net.com ■開館時間/ 9:00~17:00 ■休館日/ 月曜日・祝日